

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	12-086	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption is associated with reduced risk of Type 2 diabetes and autoimmune diabetes in adults: results from the Nord-Trøndelag health study. アルコール摂取は大人の 2 型糖尿病及び自己免疫性糖尿病リスク減少と関連する：ヌール・トロンデラグ健康研究からの結果		
執筆者		
Rasouli B, Ahlbom A, Andersson T, Grill V, Midthjell K, Olsson L, Carlsson S		
掲載誌		
Diabet Med. 2013 Jan;30(1):56-64.		
キーワード		
アルコール、糖尿病		
要 旨		
目的： アルコール摂取の 2 型糖尿病及び自己免疫性糖尿病リスクに対する影響を検討した。		
方法： データは 20 歳以上のヌール・トロンデラグ地方の人々を対象としたヌール・トロンデラグ健康研究 (3 回の調査を実施：1984-1986 年、1995-997 年、2006-2008 年) である。糖尿病患者は自己申告より同定し、35 歳以上で発症した対象者は抗グルタミン酸脱炭酸酵素が陰性なら 2 型糖尿病 (n=1,841)、抗グルタミン酸脱炭酸酵素が陽性なら自己免疫性糖尿病と分類された (n=140)。アルコール使用の量と頻度、アルコール飲料の選択、深酒とアルコール使用障害のハザード比を推定した。		
結果： 交絡を補正した中程度のアルコール摂取は、男性において 2 型糖尿病のリスク減少と関連したが (ハザード比 (10-15g/日) : 0.48、95%CI : 0.28-0.77)、女性は関連しなかった (≥ 10 g/日 : 0.81、95%CI : 0.33-1.96)。リスク減少はワイン摂取 (g/日) と第一に関連した (0.93、95%CI : 0.87-0.99)。深酒と回答した人々、または問題のある飲酒者においてもリスク上昇はみられなかった。この結果は、アルコール摂取と自己免疫性糖尿病リスク減少との関連と矛盾しない (0.70、95%CI : 0.45-1.08、2-7g/日のハザード比 : 0.36、95%CI : 0.13-0.97)。		
結論： 中程度のアルコール摂取は 2 型糖尿病と自己免疫性糖尿病の両方のリスク減少と関連する。アルコール摂取の予防効果は男性に限るかもしれない。多量のアルコール摂取は糖尿病のリスク上昇を支えるわけではないようである。		